



「神戸空港 インバウンド旅行者（出国者）動向調査結果」を公表

一般財団法人神戸観光局（以下、神戸観光局）では、2025年4月に国際チャーター便が就航した神戸空港第2ターミナルにおいて、出国するインバウンド旅行者を対象にアンケート調査を実施しました。

本調査では、神戸空港利用者の神戸への立ち寄り率や宿泊率、周遊範囲、国籍別の特徴を把握し、神戸空港を玄関口とする訪日旅行の実態を分析しています。

2024年の神戸市内における外国人延べ宿泊者数は94.5万人^{※1}を記録しました。2025年は神戸空港の国際化により、4月以降の外国人延べ宿泊者数は前年比145%^{※2}で推移しており、増加傾向が続いています。

今回の調査結果を通じて、神戸空港を利用するインバウンド旅行者の旅行実態や国籍別の傾向を把握し、2030年前後の国際定期便就航に向けたインバウンド施策への活用や今後の市場別プロモーションへの活用等、より効果的な誘客施策に繋げていきます。



神戸の代表的な風景を用いたアンケートカードを配布し、調査を実施

※1 出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」2024年各月確定値調査個票を基に、神戸観光局が拡大推計値を独自に試算

※2 出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」2025年各月2次速報を基に、神戸観光局が拡大推計値を独自に試算し、4～7月の外国人延べ宿泊者数を前年同期間と比較。

【調査結果】

神戸観光局ホームページにて公表

<https://kobe-dmo.jp/251031-2/>

【調査結果の概要】

(1) 全体傾向

- ・回答者の9割が観光・レジャー目的の旅行者であり、個人旅行者が8割、団体旅行者が2割であった。
- ・神戸空港から出国する旅行者のうち、神戸へ立ち寄った人は82%、神戸に宿泊した人は73%で、神戸空港を玄関口とし、神戸に滞在する旅行者が多く確認された。
- ・「神戸のみ」または「神戸+1都市」に宿泊し、神戸を含む2～3都市を周遊する旅行者が多く見られた。
- ・神戸旅行の満足度は98%と非常に高く、約半数が「非常に満足」と答えた。
神戸ビーフや海・港町の風景など、神戸らしい魅力を評価する声が多く寄せられた。
- ・神戸空港については、第2ターミナルの快適さやスタッフの親切さ、市内へのアクセス利便性が好評。
一方で、空港内店舗の充実を求める声もあり、搭乗までの待ち時間を充実させる環境づくりが求められる。

(2) チャーター便就航国別の傾向

① 韓国

- ・神戸への立ち寄り率（90%）や宿泊率（77%）が全体傾向より高い。一方、大阪・京都への立ち寄りや宿泊は3か国の中で最も少なく、神戸を中心に滞在する“神戸拠点型”の旅行スタイルが多く見られた。
- ・神戸ビーフのほかに、港町の風景、夜景といった写真映える神戸の景色が人気。
- ・神戸空港の利便性（出入国のスムーズさ、市街地への近さ）を高く評価する声が多く寄せられた。

② 台湾

- ・他の2か国と比べて団体旅行の比率が高く、回答者の約3人に1人が団体旅行での来神となった。
- ・大阪や大阪・関西万博への立ち寄り率が3か国中最も高く、大阪と神戸を中心に旅行する実態を確認。
- ・神戸では神戸ビーフやショッピングに関心の高い旅行者が多く、また、全体傾向と比較して「北野異人館」といった異国情緒を感じられるスポットが人気。

③ 中国

- ・神戸空港からの入国率が約5割と3か国では最も低く、関西国際空港からの入国率が約4割と分散した。
- ・神戸・大阪への立ち寄り率は全体傾向と同水準だが、京都への立ち寄り率は52%と高く、神戸、大阪、京都といった関西広域を周遊する傾向が見られた。
- ・神戸ビーフや海や港町の風景、山の自然など、「食と自然」への関心が高く、「メリケンパーク」「南京町」「明石海峡大橋」など広く市内を周遊する実態が見られた。

【調査方法】

(1) アンケート収集方法

神戸空港第2ターミナル内（免税店、総合案内カウンター、手荷物預かりコーナー等）において、出国予定のインバウンド旅行者に2次元コード付きアンケートカードを配布。あわせて、搭乗待合室内に2次元コード付きポスターを掲出し、2次元コードからWeb回答画面にアクセスする形式で回答を収集。

(2) 回答回収期間

2025年5月1日（木曜）～7月25日（金曜）

(3) 有効回答数

499件

(4) 主な調査項目

- ・回答者属性（国籍/年代/グループサイズ/予約方法(団体・個人)）
- ・神戸、大阪、京都などへの立ち寄り・宿泊状況および入国空港
- ・神戸市内での立ち寄りスポット
- ・神戸の魅力、改善点、満足度
- ・神戸空港に関する評価（満足度、満足した点や改善点）